

研究課題名	大腸ステント留置後の閉塞性大腸がんに対する観察研究
試料・情報の利用目的・ 利用方法（他機関へ提 供する場合その方法）	<p>大腸がんは年間 15 万人以上で診断されていますが、令和 8 年 1 月に堺市健康推進課より発表された大阪府堺市での 2022 年の大腸がん検診受診率では 13.5%と低値です。堺市中核病院での当院でも年間 200 例の大腸癌を扱っており、その半数は進行がんで、閉塞性大腸炎症状（大腸癌で腸が閉塞しその上流で炎症が起きます。突然の激しい腹痛、嘔吐、お腹が張る、発熱、便やガスが出ないなどです。敗血症や腸に穴が開くなどの危険があり、早急な治療を要します）を呈する患者も多いです。閉塞性大腸炎に対してイレウス管挿入もしくは人工肛門造設を施しておりましたが、大腸ステントの出現により腸管減圧の選択肢が増えたほか、Bridge to Surgery という緊急手術を回避し、一旦つまりを解除して後日、安定した状態で手術を行うことが可能となりました。ただ、ステント挿入後の腸の穿孔や腹膜播種（癌の細胞がお腹を包む膜に散らばる状態）については現在日本で行われている研究の結果を待っているところです。</p> <p>当院でもその指針に倣い、近年ではロボット支援下手術にも適応しています。今回その治療成績について解析することで新たな知見を発見できる可能性があります。</p>
研究対象者	2015 年 4 月 1 日から 2025 年 12 月 31 日までに当科で大腸切除を施行したステント治療後の閉塞性大腸がんの患者さま
利用又は提供する試 料・情報の項目	<p>診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させていただきます。</p> <p>年齢、性別、既往歴、術前治療の有無、身長、体重、PS(performance status)※、術前アルブミン値、術前リンパ球数・リンパ球比率、術前 CEA 値、術前 CA19-9 値、腫瘍占拠部位、深達度、リンパ節転移、遠隔転移の有無、病期、近位側断端距離、遠位側断端距離、剥離断端距離、手術術式、リンパ節郭清度、人工肛門造設の有無、手術時間、出血量、術中・術後合併症の有無、術後在院日数、術後治療の有無、再発の有無、最終無再発確認日、最終生存日</p> <p>(※PS：全身状態の指標であり、患者さんの日常生活の制限の程度を示します)</p> <p>化学療法に用いた薬剤の種類、投与量、副作用の有無や程度、血液データ、レントゲンや CT、MRI 等の画像データ)</p>
研究予定期間	機関の長の実施許可日 ~ 2028 年 12 月 31 日
試料・情報の取得方法	通常診療の過程で得られます
試料・情報を利用する者 の範囲	この研究はベルランド総合病院 外科のみで行います
試料・情報の管理について 責任を有する者の氏名又 は機関の名称	ベルランド総合病院 院長 片岡 亨
研究に協力したくない場合	研究への試料・情報の利用についてご同意いただけない場合は下記お問い合わせ先までお申し出ください。不同意の場合でも診療に不利益になることはございません。
利益相反について	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問合せ先	ベルランド総合病院 外科 氏名：片岡 淳 メールアドレス：j_kataoka@seichokai.or.jp

	〒599-8247 堺市中区東山 500-3 Tel : 072-234-2001 (代)
--	---